

WEB再録

IBITSUGE

歪華

前編



ご注意とご挨拶

こちらは過去2020年11月に発行致しました
「歪華」という当サークル主の描いた
鬼舞辻無惨×竈門炭治郎の長ったらしい同人誌です。
前編/後編で構成されているうちの「前編」になります。

発行から一年以上かけて様々な方々の
手に取って頂けた経緯もあり
個人的にととても感慨深い作品となりました。

どこその腐女子様が、今からでもこれを機に
鬼舞辻無惨×竈門炭治郎に
触れる機会がありますように…
願いを込めてのWEB再録になります。

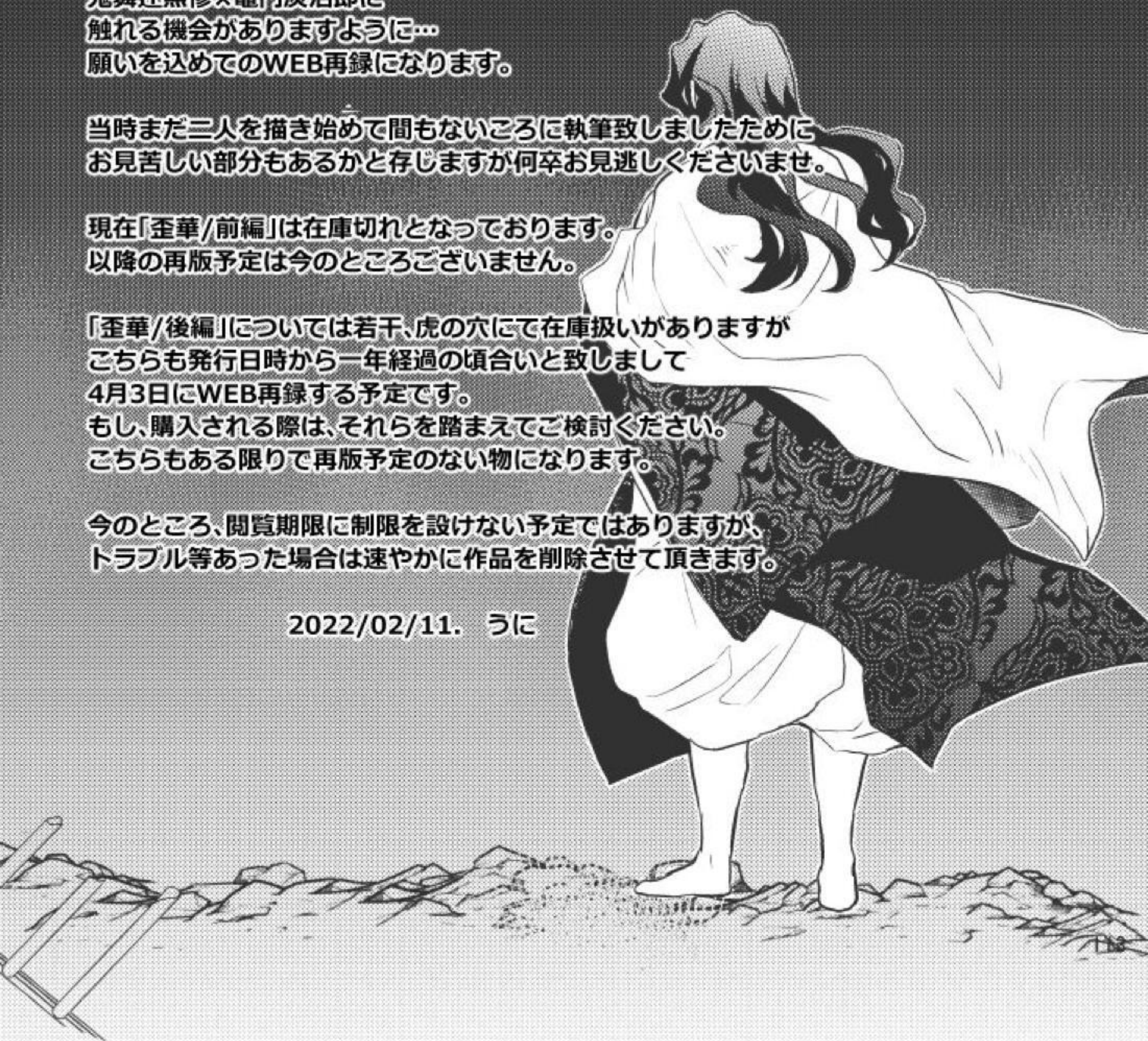
当時まだ三人を描き始めて間もないころに執筆致しましたために
お見苦しい部分もあるかと存じますが何卒お見逃しくださいます。

現在「歪華/前編」は在庫切れとなっております。
以降の再版予定は今のところございません。

「歪華/後編」については若干、虎の穴にて在庫扱いがありますが
こちらも発行日時から一年経過の頃合いと致しまして
4月3日にWEB再録する予定です。
もし、購入される際は、それらを踏まえてご検討ください。
こちらもある限りで再版予定のない物になります。

今のところ、閲覧期限に制限を設けない予定ではありますが、
トラブル等あった場合は速やかに作品を削除させて頂きます。

2022/02/11. うに







星の号外?
新しい年号か

明治が
終わったか

「大正」
つちゆう

「大正」ねえ

…はて

「たいしょう」?

読むにあたってのご注意

こちらの作品は鬼舞辻無惨の過去について
本誌の掲載以外の情報は全て捏造の設定で描いています。
本作品を執筆中(現:20/11/15)の段階で
無惨の過去・生い立ち等について本誌で掘り下げされていない状態
で描かれた物です。それらを踏まえてお読み下さい。

当執筆者は平安時代の背景に詳しくありません。
手元の資料等で情報を得ているため、
歴史について興っ当なご指摘は控えて頂きたいこと申し上げます。

本作は前後編にて完結致します。うちの前編になります。
最後までお付き合い宜しくお願い致します。

うに



これは
愛の物語だった

また向こうで
会えるだろ

あ、
じゃあ

善逸さん
涙い涙

ほん、
お父ちゃんの顔
もう一回見る？

おきー！



「大切な者の為に
生きた一生には
今終焉した。」

涙があつても、
辛くても

守り通せた
命があつて

生きた証を
残せたこと
幸せだった

誰かの為に
強くあり続けた
誇り高い人生
だったと思う

混沌する意識の中
最期の最期
ふと零れ落ちたギモン

「何故
俺で無くては
いけないか
のだろう」

この運命を決めたのが
神様だとしたら
神様はアイツを討つために

俺を引き合わせたの
だろうか

俺は
縁をさんのように
強くないのに

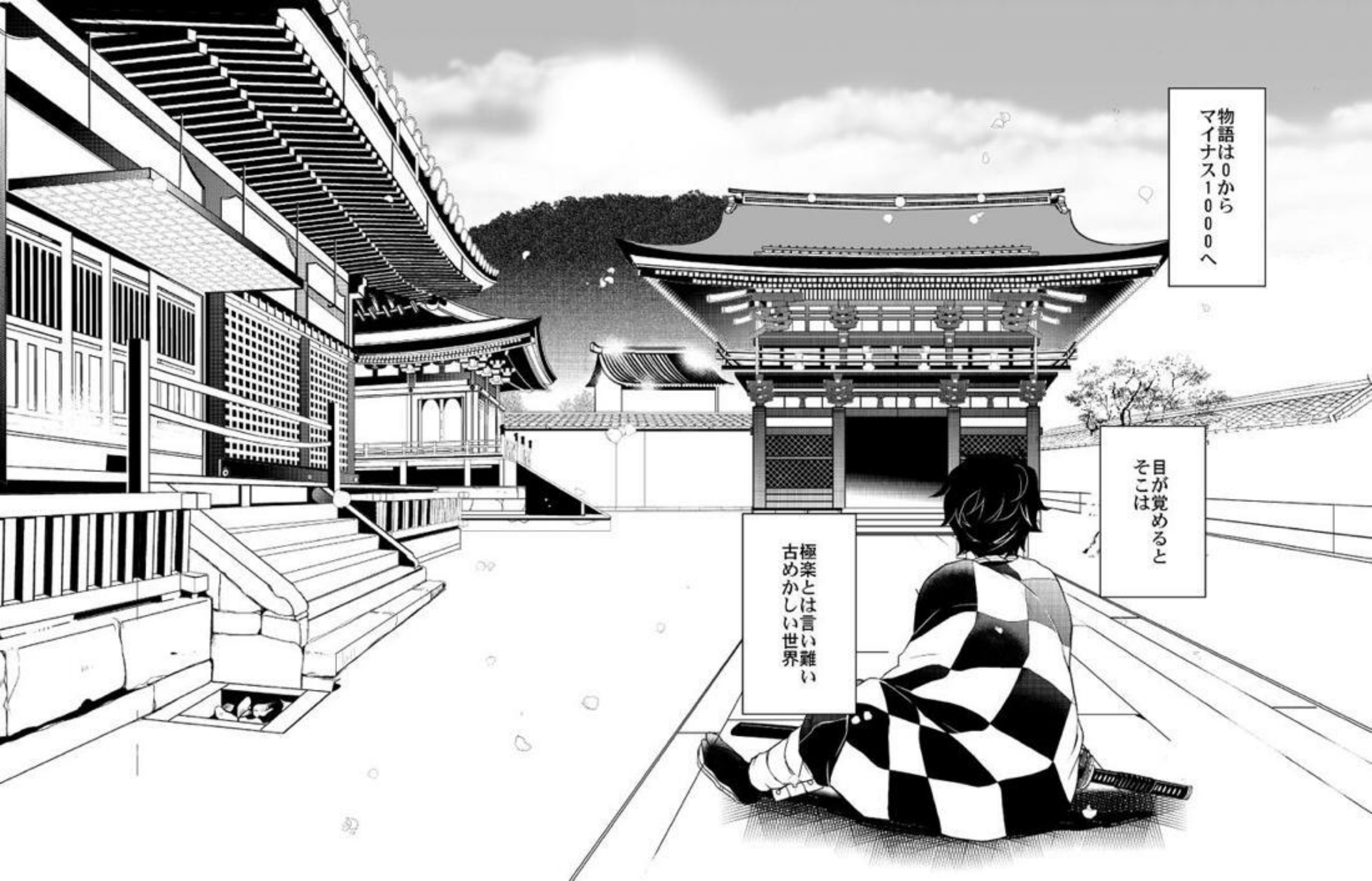
アイツは
人を食らってまで

生きて何を
得たかったのだろう

物語は0から
マイナス10000へ

目が覚めると
そこは

極楽とは言い難い
古めかしい世界



自分は
妙な体験を
している

貴様どうやって
内室まで来た！

死にそこは
極楽では
なかった

選がすな
追え！

みねうちで
いけるか……？





死出で
辿り着いた
ここは

危険な
過去

それを
裏付ける
よう

懐かしい
ニオイ

あまり
寄つては
穢れがうつるぞ

そうは言っても
被害があつては

やかましい
病に響く

アア
申し訳ございません
どうぞお返事を

何故お前が

いぐぞ



頭が固いので
殺すつもりで
やったが

コイツが
いるって
ことは



おはよう...

ここに
いるんだ



俺がわかって
ない？



子供だな
何者だ

何しに
きた

ここは
地獄...？



むぎ...ん

なのに...

顔も声も
確かに無惨だ



数々の家具や
彼らの出で立ちは
確實に元の世界の
ものではない

ハッハハハ

むぎっ

ホントに俺が
わからないのか

お前のような
ミョーチクリン
見たことない

私が許可しない
限り口を開かない

夢じゃない
のか！

やはりここは

失礼致します
夕顔を運んで
参りました

「今から
千年以上前」

「一番最初に
鬼となった者」

人間…

無惨…

…千年











おそらく

ここはきっと
地獄に違いない

コイツがまだ
「鬼になる前」の
平安時代



俺が…
毒だなんて
言ったから…

処罰を受ける
より先に毒で
死ぬなアレは

尋問せずとも
罪の差し金かは
検計がつく

どうして
コイツが
毒を盛られて

俺そうにして
いられるかが
わからないけど



太陽っ



そう恐がるな
お手柄だ

おかげで私は
助かった

毒の血が
わかるのは
何か仕組みが
あるのか？

ミニオイ



さてお前の
話に戻すか



何度コイツに
巡り会う

丁度いい
氣に入った

何故いつも
お前は

私の
毒見役として
ここに身を置け
『炭治郎』

俺を
選ぶんだ？

さすれば
生かしてやる

この場も機便に
収めてやるぞ

機便？

底い立てを
してやると
言っている

そうすることです
『賊を取り逃した
鬼狼りの処刑』は
晴消してきよう

処刑……

ここがどこだが
本気でわかって
ないのだな

ここは
皇族貴族の
寝床……
帝の内裏と
通じている

それ程高貴な場所に
長物をもつ不審者を
通した罪は重い

帝……って
あの帝……？

どいやん

いざい

私の書添え次第で
昇格のは一筋こと
任を解かれ
陰謀に迷う

お前一人
ノコノコ出ていった
所でもう
正は城えない

私はもはや
罪人のお前を
生かすか殺すかの
話ばしていかない

彼等を救うか
殺すか
話をしている

そんなの
死ぬか……
引き受けるか
じゃないか

何を言う
談治郎

お前は自分の死より
他人の死が
こたえるとみた

このまま放便にも
渡らず、死罪で終わる
お前の命を

私の元で有効に
使つてやると
言つてゐるのだ

間違いない

自分の欲しい物の
ために命を物の
ような言い方をする

その勝手さは
昔からだつた
んだな！

わかつた
言う通りにする

けど



お前のやり方は
横暴だ！

ずっと
このやり方が
許されると
思うなっ



活きのいい
子供だ

自分を
わきまえない
その態度こそ
使い勝手がいい

このつ
鬼めつ



死ぬ前に
考えた事を
思い出した



生きた道は
人それぞれ

元が人ならば
鬼も然り

なら、
コイツは何のために
千年もここに
執着したのか



知りたいと
思ってしまった

戦った仇敵の
「生きた理由」を

一瞬でも

本当に

鬼じや

ないんだ

それがきつと
俺をここに
呼び寄せたんだ

毒見役って！
要は無惨の食べ物に
毒がないか
調べれば良いんだな

それに……

他は……

上様の身の回りの
世話？

それだけで
良いんですか？

ええ、上様が
自らお連れしたと
聞いています

私達が勝手に
従えるのは
避けようと
思います





差し向けた
相手って
ハッキリ
わかるのか？

私の即位を
今までも
敵々邪魔して

母の失脚を図る
泥人形のような
女共だ

私が死んで

都合が
いいものは
ごまんと居る

目星がついて
いるのは……
父上様の正室
うちの3人目辺り

内裏のは
水面下は
泥水だ

私のことを
「死ねばいい」と
考える輩で
溢れている

この寝殿に
マシな居場所
など
存在しない

俺は……
何をしたら

逆に
何が出来る

……

私は休むぞ

掃除に洗濯に
風呂炊き米炊き

うるさい
では静かにしてろ



ダメだ無惨

俺の時代にも
あったこのニオイ

これは
麻の類っ

返せつ
それが
ないと…

…っ
ではどうしろと
言うのだ
教えろ！

これを使うと
きつと辛なんだろう
でもそれは
今だけだ

お風呂に
入ってくださいーいっ

おぞましい程の
血のニオイは

この部屋に住む
乱暴者のものだっ

身体を触んで
最速には血があつても
効かなくなつて！
ポロポロになつて
死んでしまうんだ！

依存したらもつと
酷い病気になる！

風呂。

だから従者も
近付かず

コイツも
寄せ付けない
のだろう

立派な調度品だって
全部ホコリが
被ってる

手入れが一切
行き届いて
ないんだ！

オイッ、終っ
て！
お前さん、
さっさと
掃除しな
さいよ！

あんな血塗れて
暗くて汚い部屋で
ロクに風呂も入らず
おんなん吸ってたら
おかしいだろうが！

本気で
言っている
のか？
私の素顔を見て
良しとするのは
従者のみだ

よし！
脱がす！

あや

はい

ほ

！

なんだこれ…
墨…？

まじないだ
病を祓うための

死産から
起き上がった
身体は
毒かれやすいの
だそうだ

お前が
医師の顔で
殺しているぞ

え、
医師？
俺が？

物思みや薬に
詳しいと
みたが…と
向と分かつて
僕に寄るのは
医師か随分
くらいだからな

おまえに身体を
診せる

と」とかへ
これは消していい

原因は他に
あると思うから

現に効いて
ないんだろ？

あいわかった
なら…



勝てるって
言ってるも…

れぬし
さあさあ

しのぶさんでも
なきや
外傷くらいしか
わからないぞ

体調とか
体質なら
何となくなら

うーん…

らッ

くい

それにしても
あの無惨の身体

鬼じゃない
んだなあ

ちゃんと嘔くと
首の辺り

無惨自身の
二オイが
ちゃんとする

おい



まさかそつちの
気があるのか？

象徴的な？

いやいやいや

そこまで
拒否せんで良い

このまま
誤魔化するの
は
苦しいな……

あんな
無惨

俺は別に
医者じゃない
ただの
炭屋で剣士で

「大正」って
未来の時代から
ここまで遡って
来た人間だ

「たいしよう」？

病や体の知識が
ある程度わかるのは
俺の居た世界では
当たり前で

清潔な部屋で
日に当たらないと
光の栄養不足で
病氣にもなるし

普通に飯を食べて
風呂に入っても
温まるだけでも
病氣の予防になる

大正では皆
毎日当たり前に
出来てることだ

医者も占いなんて
用いずにもっと
的確に病を言い当て
らるくらい
医術も豊富になってる

ほかまん……







「むさん」でいい

何してるの
自信満々

いいのか？
オレは血かきり

結構失礼だぞ
「むさん」って

そやつの
愛称だろう？

私が



そのまま
呼べ

えっ



文字通り
惨めなのは
変わらない

そっ！



そんなの僕
かんがえて
呼んで
なかったよ

アイツが
そう自分で
名乗ってた
だけで！

お前のこと

タダの陰険で
性格悪い奴だと
思ってた

繊細で
複雑な香りが
無惨からする

まあ他から
言われると
腹が立つが

お前だけが
呼んでいい名にする
他に言うなよ

…わかった

例の袋は…

OK

あれは
捨てたぞ

信じろっ

まあ…

そんな顔するな
黒湯をちゃんと
飲めば効くん
だから

アレは
持つてるだけで
悲惨な目に
あうぞ

確かに
体のつもより
具合はいいな

✓



いくらなんでも
悪く言い過ぎだ

あてられたの
かしら……

やだわあ

アイツは鬼じゃ
ない……まだ

そうか……

所憎いもんで
どいてくださいッ

まだ……

私のような田舎娘に
情けをかけて下さった
貴方の母上には
感謝しなくては

随分たの
だつたな……

はあ……
ご尊顔も
言うことなし

人と
思えない程
真っ白で

私をどうか
血筋に加えて
下さいまし

綺麗な背中を
してらっしゃ
るのね

青白くて

今にも死にそうに
見えるか

俺が平安に
来た理由



今ならまだ
アイツの鬼化を

阻止できる
のか……？



おはよう無惨
起きてるか！



この世界
やつぱり夢じゃ
ないんだな





身籠もった
知らせしか
無いからな

屋敷に
居るかも
曖昧だ

父になるのは
簡単だな

一度二度と
見合いをして
行為を重ねてるうち
知らぬ間になる
ものだ

歌を贈る
相手を

自分で探しに行く
足など私にはない

母に連れられた
女を命ある限り
死てがわれる

そう言う
時代か？
一夫多妻制
だったか？

それが私の
唯一の役目で
孝行だ

無惨の顔は
ではなかった

まるでまだ
愛情に飢えた
子供のよう

あどけなく
見えた

孝行と言いつつ
聞き分けのいい子を
演じてないか？

無理を
してないか？

ムザン？

お前のじゃない
あの血は
何があつた血だ？

ムザン

複雑な
ニオイが漂く

ムザンノ

はっ

死んだ
のか…!

えっ…

アレは

犬だ

毒のニオイ…
昨日と同じ

いつも私の
食事を
食っていた犬だ

2日前から
部屋に來なく
なっていた

やはり
ここ数回毒を
入れてたのだな

じゃあ代わりに
死んじゃった
ってことか…

可哀想に…

怖たらしいぞ



墓の在り処を
無意味だと言った

アレは人の亡骸を
尊ぶことを
知らない者の言葉

なら今いいます
半べはいい

なん...

今まで一緒に
笑ったり怒ったり
してた人が

居なくなったら
寂しいだろ

ここに居て
見守って
くれてるって
解がつてるって
思うんだよ

心はずつと
欠けない

強いはまだ

そのままの
腕では何も
できぬだろ

おい

お前も
風呂にいけ

私も
する

「たいしょう」でな
毎日するモノ
なのだろう？





「つたくー
湯浴み用の
泡め湯だつて、
さつさと
言ってくれよ
ハハ」

「いや、あれは
あれで面白いで
感動したぞ」

「自ら湯に
浸かるとはな」

「はいっ！
もう洗髪が
済んだのか」

「ヌカじやなく
ふのりで
洗ったからな！」



「私の裸ばかり
晒しては
悔しいからな」

「…私は
みすばらしいか？」
「え？」

「お前からしたら
『無残』か？」
「どうかしたのか？」
「ひっ」

「お前のも
見てやろうかと
おもったのだが
顔に似合わず
相当嵌めて
いるな」



男同士の
はずなのに

小柄な割に…

これなら
晩の見張りも
可能か

見た目のせいか
近いとドキドキ
してしまうっ

聞の直なんて
聞きたく
ないやいっ！

あんなの
呻き声だろう
聞いてだけだ

牛乳を
飲んで
はい

顔は良い
んだよな…
リにまて

家族なども…
こうして
洗ってたのか？

手つきが
馴れてる

自分の子らの
面倒は
からつきし
だったけど

弟妹には
毎日してた

もっと
踊りだてな
動かし

母上に、
してもらった
ことも？

何だい

母さんは…

桐豆子が生まれ
てからそつちに
かかりつ
ばなしで…

ねずこ？

妹だよ

下が五人も
居たんだ

それは
いやか
で
いいな…

無惨…

お前が

お前が全部
壊したんだよ

また、
会えるといいな

炭治郎の面構えを
見ればわかる

暖かい者に
愛情を注がれて
育った人間は

暖かかった優しさを
惜しむことなく
他人に分けてやれる

きつと良い母を
持ったのだな

炭治郎は



どうして鬼になったんだ無惨

炭治郎……？

おおお……



ムサシ……

！

……



会えないのか
炭治郎……

ア……

まさか……
黄泉に……？





□□様より
甘味のお届けに
参りました

味の
ご感想まで
聞いてこい
とのこと

また商を…

今度は名を
明かして
堂々と

毒と明かして
騒ぎにしたら
また…

召し上がるまで
部屋にあげて
置かせぬか

美味そうだが
ご苦労だ

部屋に
上げずとも
ココで頂く

そうだ、
炭治郎

！

味見
いたすか？

□□様の
有難い物だ

俺が…
毒を…

毒見つけて
そういう
事か？

調子に乗るな
バカモノ



しつかりしろっ
出せるか？

死ぬ…痛じや
ない…吐けは

複数で…
押しかけたのは…
しらを切る為だ

要所に歯を
食わせに突ては…
複数で口裏を
合わせて…

そんな無茶
なんで我慢
するんだ…

死んだら
どうするんだ！

内裏の…

母上に心労を
かける

「頂戴したのみに
収めなければ

目上から「贈り物」を
された以上

お前が「毒だ」と
騙くのを止める
必要があった

正室同士のいがみ合いで
ことを荒らげては
帝の機嫌を損ね兼ねん

リネッ

お母様……

母の面目は
潰せない

南を騒がせて反感を
買うくらいなら
大人しく飲むつて
ことか……

あの
血痕たちは

こんな仕打ちを
嫌度と堪えて
出来たのか

だからか

時期に私の世継ぎが
この屋敷の何処かで
生まれる

私の行いが
母にとって
より強い権力の
「楔」となろう

だから常日頃
母の失脚を
望む者は弱い私に
手を掛ける

元より
敵の多い
母親だ……

……無惨が

自分の息子が
こんな目にあつて
ることは知つて……

十一の年から
会えてない

文はくる

息災とは
聞いているが

……

私が死しては
母は帝との
唯一を絶たれ
私も価値を
失うのだ

母上が
あの手この手で
得た地位を
一秒でも長く……

間違ってる

母親の地位のために
息をするなんて

そんな生き方
間違ってる

価値って
なんだそれ

炭治郎

私も
喘り過ぎた

私達が
解り合おうのは
嬉しい

「無条件で愛する」
のがお前の母で
「愛を失ふは」
価値がない」が
私の母だ

私の母を
否定する道理は
お前にはない

聴いじゃないか
そんな考え方





なあー！
こめんっては

も

ばっ、
×、
あ

なんでお前は
布団から出る！
くっつくな！

うちは仲直りは
こうするんだっ

お前が母さんを
慕う気持ちには
わかったから

……うっ……

生きるのが
辛いのか？

お前が
何を大切に思うかは
自由だけどさ

お前のこともちろんと
大切にしてくれる人を
選ばないと

炭治郎







あ、でも
開事の時は
カンペンしろよ



ソコソコ強いし
気配も読めるからさ

夜守り
引き受けるよ



丸腰では見張り
ならんだろ

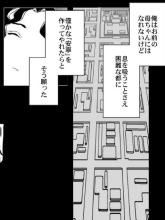
目輪刀…
盗してくれる
のか？



安心して
盗っていくわ



頼んだぞ…



何だこれ

「面ですこの子に
面を持たせたのは

「この高田から
1歩でも出るならん

「平定を縛りますから出

「これは長くは
生きられないな

「貴女にもお目にあはれ

「あの女が

「吸い寄せた蜘蛛は完全と
勝手に溜まるのだな

「何も言わず
食べなさい

やめろ

「美にならぬが
ホウロウを喰うなと

「こんなの、
まるで...

はっ

！
ひん



へルノあの母ちゃんも
会えるのか？
十一歳以来なんだろ？

お前がが
生まれる前に
別居せよとされてた

お前に似て
美人なんだろ？
凄しみんだろ？

お前は留守番だ

えっ
どうなのかな

位が低い者は
聞いてもダメだ

今日はこれから別荘で
納采の準備をしに
私の正室が来る

勝手に
一晩かけるゆえ
お前一人で寝れ

納采？

「納采の納合わせ」と
言えはわかるが

結婚のあいさつ……？
結婚みたいなの……？

無理！具合でも
悪いのか？

よくわかったな

強いられる面倒を
嫌々こなす私めをどうか
慰める気はないだろうか
悪門炭吉郎

ハ……

なんだ？
聞かぬ言い方だな

大好きな母ちゃんに
会えるんだろ？

母ではない正室だ、
さほど心にもない
女を相手するのはい
ぬれるのだ

お前を
お前を
お前を

手が
出たからと
ちよびて
我が物だ
お前を

お前それ
「こころをうさぎ」

あーあーあー！



大事な母上の
ためだろ！

頑張るしか
ないっ！

頑張るしか
ないっ！

なんだよその顔は
めんどくさいな



強い物が
どしたんだけど
どかしてくれど

アッ

アッ

アッ

アッ



わかった！

欲しい言葉が
通ったのか？



痛み止めです
ちよつとした
ものだけど！

アッ

アッ

アッ

アッ



頭痛が
さすかねえ...

頭痛が
さすかねえ...

頭痛が
さすかねえ...

頭痛が
さすかねえ...

頭痛が
さすかねえ...

俺があの時
蝶屋敷で飲わった

蝶屋敷
出来る組合だ

これしきで
旦那様いされても
いふふふ
上様
貴様こそよく
睡すわね
何かあるの
かしら
全然いふふふ

ああ、めんなさい
アイツ飲み込みが
悪いとか

蝶屋敷が嫌いから
いらないうつて
わがままばっかで

よく考えれば
私達「蝶」に
なにかされた事
無いものね

蝶屋敷の所に
いちいち来るの
可愛いわね

なんか
嬉しいな

わかるっ
わがままになった

そうなんだ
子供っぽくて

本当は
人恋しい
不器用な奴







ポロポロなんだ

血のニオイ...

ムザン

なんだ?

血のニオイ...

血？

痛い……
笑かアしは

いつも
そうだ

私の邪魔をする
死の邪魔をする

続けを
吐いて出る！

こんな所に来て
笑ってくる

母上……

オマエ……
本当に……

あなた以外もう
何も無いのに

呪われて……

オマエ達は

何なんです
アナタはっ

續れるわよっ

どれだけコイツを
苦しめれば
気が済むんだ

それでもっ…

母親か…？

タダ、タダ
愛されたかった
だけなのに

子として
当たり前

黒い涙は…
血液です…
呪いなんかじゃ
ありません

まて、痙攣かも
わからん

勝手にここから
離れるな小僧っ



俺が
生き証人になる



違う！
食道が爛れて
るんだ！

誰一人わから
ないのか！



コイツと関わって
不幸が伝わるって
言うなら！

あゝ



はあ

はあ

ごめん無常……









ヤリヤリ

はあ

だから
「鬼」なんて
呼ばれて



そうやって…
相手に乱暴
するのとか

頭にくるわ



こんな
地獄

うん



でも

す



「口吸い」も
好きな相手に
だけ許す
大事な愛情表現…



鬼になっても
仕方がないのかも

ふせん…
それは
大正では

生涯愛し合うと
誓った者同士でする
尊い行為なんだ

わかったか？
無惨

わかったなら

この子は
まだ人の子だ

お前のために
生きてやる

鬼から
守つてやらなきゃ

顔を
近づけること自体
普通はしない

んうっ

口吸いは
しないもの
なのか

んっ







悪いニオイ

あいつの時



ニオイ香えは



あのニオイしか
ちうしないか



「欲しい」

欲しいが

お前の醜態に…

中心に

私を
迎えて欲しい

これで
あつていいのか
分からないが…

はくっ

今から
される事が

頭を通る

おれ…覚えて
欲しいんだ

これは毒い
「愛憎」だ
だつてこと





こんなに
興奮したのは



初めてだ
おはよう



黒から
白へ

つハッ...



身体は
生まれつき弱かった



母に会いに行く
乳母をよそ
困らせた



私を一人にした

私が煩わし
かつたのだらう
乳母を取り上げ



母は父に振り向いて
言うことはかり
考えている

悪かな女だった



タダでさえ
病で苦しむ私には

「救う神など
いない」と
氣付かされる
いい處だった



恐怖でしたか
な

膝を震だと
わかってて
口に運ぶのが



私を無理矢理
大人にした



顔も見せない
あの女は

常に自分を
分離くしたがる

力のない一門を
ためかかえる

産院の子種を顔に
密着ってくる
メスを離りつけて

吐き気しか
しなかった

独りで
泣いて嘔
吐して
身体が痛
む度
心が痛
む度



抑えはどんどん
効かなくなる



そんな
女が

やっと寝れ
たと言った



「お前が
生きていくうちに
何とかしなくては」



私は悪か
で
自殺した
のを

己の欲しい物の
ために、こころまで
壊れるとは

母が見せた
美しい心を私は
思う

その思いの
強さを

それでも
思わないと
悔めだろう
炭治郎

自分の望で
立つていられなく
なるのだ



『私のために
生きる』

炭治郎…』

『歪華/前編』…END

「歪華/前編」

2020/11/22 発行

サークル:「お前に決めた！」

描いた人:うに

Twitter:AWAMORI0808

ピクシブ:<https://www.pixiv.net/users/11615874>

ご感想下さると喜びます…✉

印刷:金沢印刷様

※ネットオークション出品・フリマサイト出品

転載・無断転載禁止

拙いお話を長々と読んで頂き誠にありがとうございます。大好きな推し達に捏造を押しつけまくりました。始め本編に沿ったお話等考えておりましたが、結局のところ鬼舞辻無惨に鬼滅の刃を自分の妄想120%で綴る方向性の本になってしまいました。

本誌では茶毘に伏せていたことをきっかけに「貴族」程身分が高いことと見なし、産屋敷が持つ財と死罪人を勝手どうこうできる権利があると思い「皇后クラスの出生じゃね？」という安直な思いつきから無惨を簡単に皇族設定に…(笑)

無惨の過去や生きた目的などについて言及されてないところ

自由に書き殴ってしまいましたがいかがでしたでしょうか…

この本が肌に合わない方もいらっしゃると思いますが、どうしても鬼舞辻無惨を「竈門炭治郎のために生きた」炭治郎溺愛モンスターにしたい腐女子のお便所落書きだと思ってまた後編もお付き合い頂けたら幸いです。

近いうちに書き上げられるよう努力致します…。

うに

読了いただき有難うございました。

やはり今見るとお恥ずかしいところばかりですが、

それも含めて当時の良い思い出です。

何事もなければ、次回『歪華/後編』4月3日のWEB再録にて掲載致します。

2022/02/11うに